

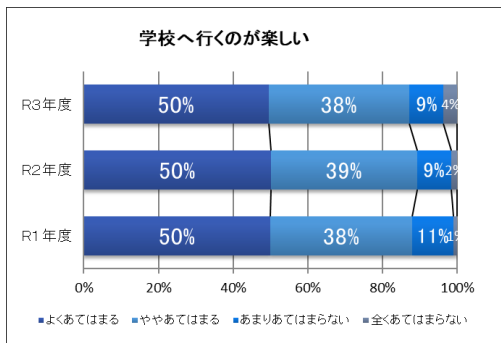
令和3年度学校教育自己診断の結果のお知らせ

寒冷の候、保護者の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本校教育にご理解・ご支援を賜りありがとうございます。

さて、12月にご協力いただきました学校教育自己診断の結果および、その分析についてお知らせいたします。今回の診断結果や昨年度までの結果を基に、これからの学校運営や生徒の学習指導等に生かして参りますので、今後ともご協力、よろしくお願いいたします。

- ① アンケート回収率 生徒 79.7%(652名/818名)、保護者 55.9%(423/家庭数756)
- ② 結果の概要と分析

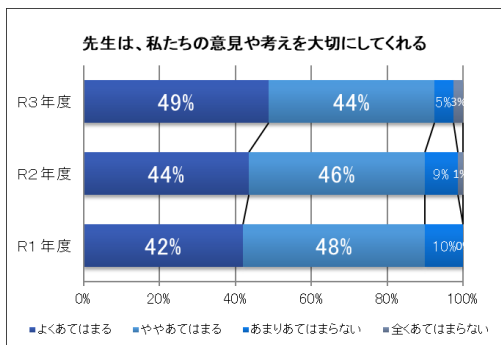
I. 生徒アンケートより



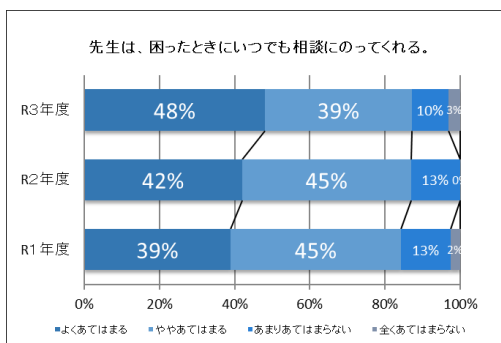
今年度の学校経営目標の一つとして掲げている「めざす生徒像」は以下の通りです。

【めざす生徒像】

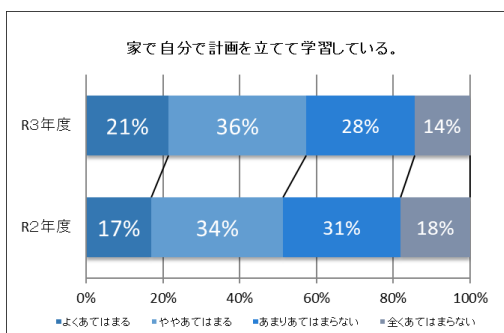
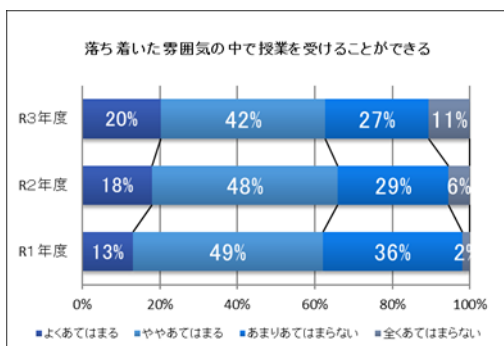
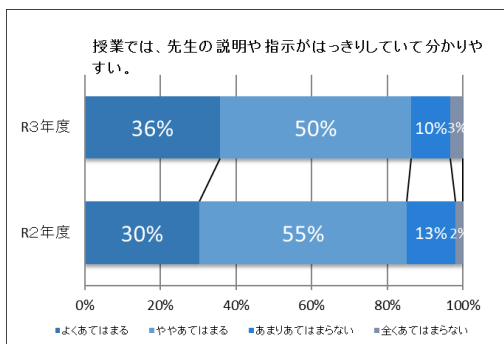
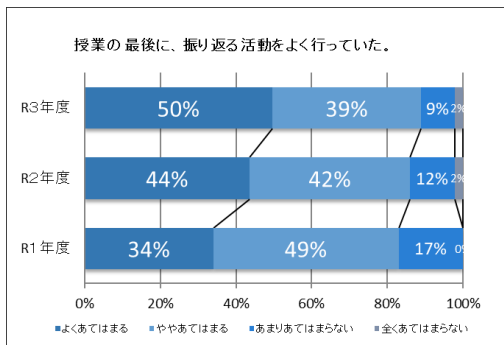
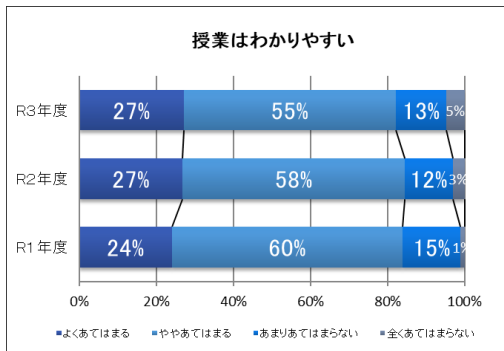
- (1)感性と創造力豊かな、自ら学ぶ意欲を持つ生徒
 - (2)自他を大切に、思いやりと感謝の心を持つ生徒
 - (3)心身ともに健康で、たくましい生徒
- 人を思い遣る、何事にも努力をする、感謝の心を持つ等、当たり前のことを当たり前にできる生徒。



例年、本校で重視している「学校へ行くのが楽しい」の回答結果ですが、ほぼ例年通りでした。今年度も、9割の生徒が肯定的な回答で、50%の生徒は強い肯定「よくあてはまる」の回答でした。「先生は、私たちの意見や考えを大切にしてくれる」「先生は、困ったときにいつでも相談ののってくれる」の質問でも、9割の生徒が肯定的な回答でした。また、それぞれ「よくあてはまる」の回答は、昨年度比で5%以上増加していました。



教員の子どもたちへの対応が、年々浸透していると感じられますが、「(だから、)学校が楽しい！」と子どもたちが実感し、最初の質問項目の数値も上がるように、これからも日々改善を図っていきたいと思います。



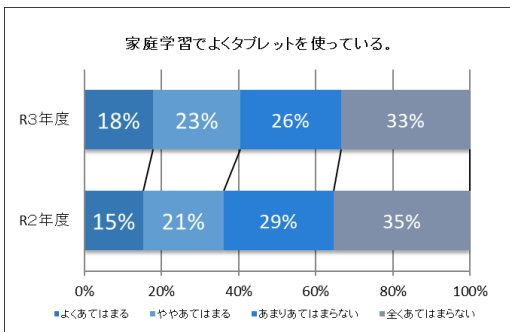
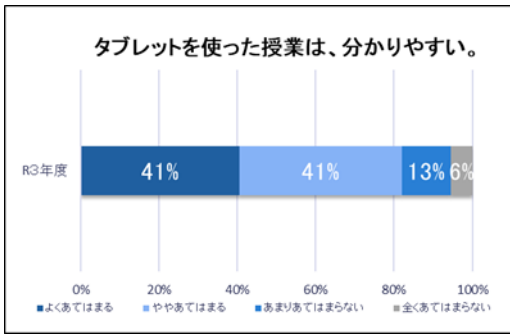
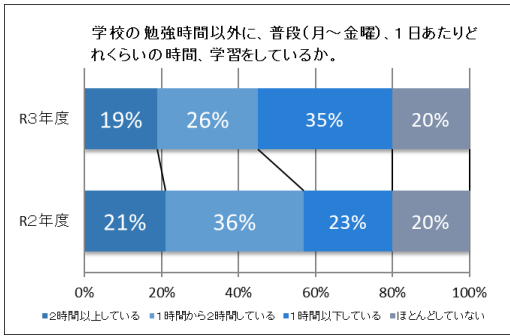
次に、授業について報告します。

本校では、「協同学習」と「ICT の活用」を授業に取り入れ、授業改善を図っています。協同学習とは、グループワークの形を基本として、教科の学習を通して、学び方や他者とのつながり方を育成する学習スタイルです。「教師に教わる」のではなく「自ら学ぶ」ことを重点としており、学習に対して主体性が育まれることで、学習理解が進むという狙いです。一昨年度の秋から校内における研究・実践を進め、3年目になります。授業目標の提示(グラフは割愛)や、振り返り活動の実施、その他の教員の説明・指示など、授業中の教員の行動については毎年ブラッシュアップされているのが、グラフの数値でも見て取れます。

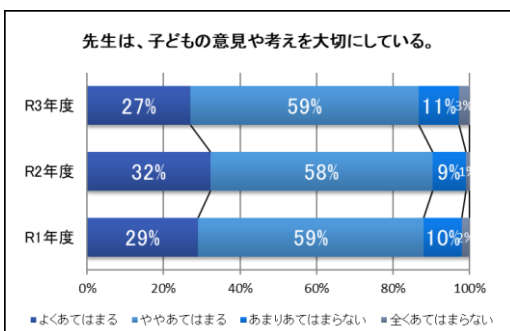
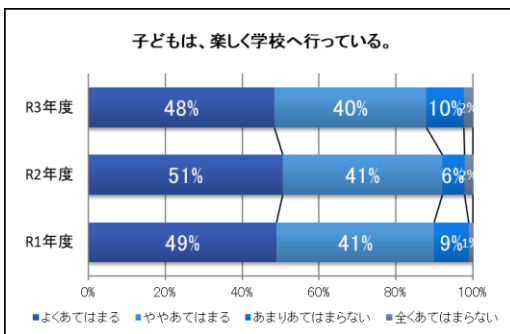
しかし、「授業はわかりやすい」の質問では3%、「落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができる」では、4%の肯定的回答が前年比較で下落してしまいました。コロナ感染防止対策として、グループワークを制限したりなど、協同学習を進めるにあたりビハインドになる要因はありましたが、やはり「子どもたちの主体性」「自ら学ぶ意欲」を育てきれなかったところが一番の要因かと考えております。前述しました通り、協同学習で育まれる重点は、「自ら学ぶ」姿勢です。教師に細かくかみ砕いて教わることを期待しては、伸びない要素です。子どもたちから、授業中の教員の指導・言動に対して、ある程度の評価をもらっていますが、逆に、子どもたちには育成すべき重点を浸透させきれていないことがグラフに表れています。「落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができる」のグラフにある「よくあてはまる」の回答の数値のように、協同学習の本質が理解できれば、同じ授業でも捉え方が変わります。同数値は、少しずつ増えてはいますが、大きく伸ばせるように子どもたちの意識改善・授業改善に引き続き尽力します。

次に、家庭学習について報告します。「家で自分で計画を立てて学習している」の質問では、肯定の回答が前年比で6%も伸びました。そのうち4%が「よくあてはまる」の回答でした。ここにも、少しずつかもしれませんが、「自分でしっかりやっさいこう」とする子どもが増えていることが見て取れます。

しかし、「学校の勉強時間以外に、普段、1日あたり



Ⅱ. 保護者アンケートより



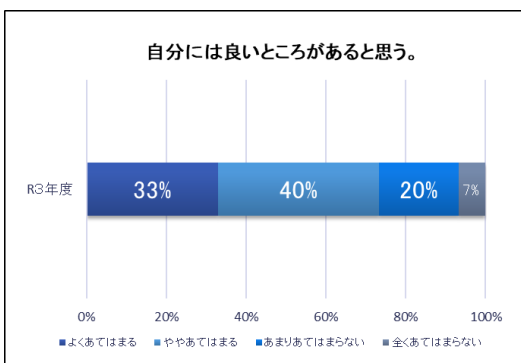
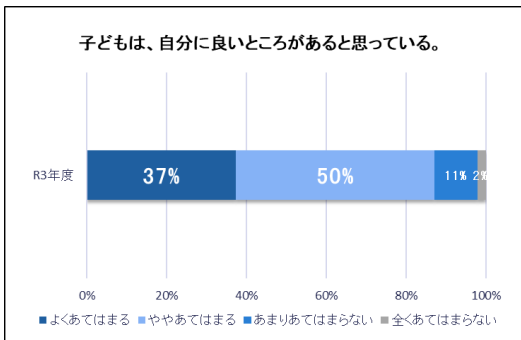
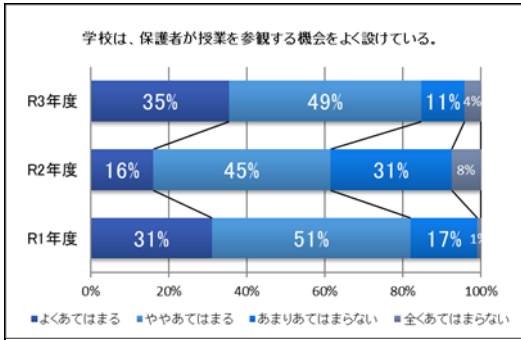
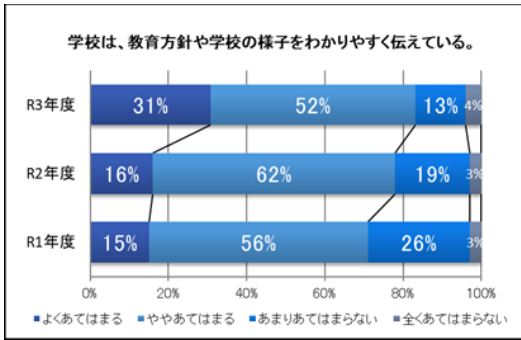
どれくらいの時間、学習をしているか」の質問において、2年連続で5分の1の生徒がほとんど家庭学習をしていないことも分かっています。「めざす生徒像」から考えても、「自ら計画的に努力を積み立てていく」ことは必要だと考えています。家庭学習について、5分の1の生徒がほとんどしておらず、約4割の生徒が計画的に進めていない。この現状を大きな課題と捉えて、早急に改善を図っていきたいと思います。

続いて、タブレットの活用について報告します。2020年の12月に全生徒へのタブレット貸与が完了しましたので、丸一年が経ったこととなります。「タブレットを使った授業は、分かりやすい」で、8割強の生徒が肯定の回答をしており、効果を実感できているようです。家庭学習についての数値自体が少ないので、まだまだ課題ではありますが、「家庭学習でよくタブレットを使っている」の肯定回答数も前年比で5%向上しています。タブレットドリルをはじめとした家庭学習向けコンテンツは、一人で勉強しやすいものになっています。何をすればいいか家庭学習で悩む生徒がいれば、ここからスタートしてもらえればと思います。

ただし、この1年、タブレットの不正使用も決して少なくはありませんでした。「道具を正しく使う」「ルールを守る」ことについては、ご家庭でも声掛け、目配りをよろしくお願いします。

ここからは保護者の皆さまの回答からご報告させていただきます。

「子どもは、楽しく学校へ行っている」の回答では子どもたちの回答と同じ 88%の肯定数でした。ただし、「先生は、子どもの意見や考えを大切にしている」の回答では、総肯定回答数、「よくあてはまる」の回答数ともに右肩上がりだった生徒の回答と違い、保護者の方の回答では、前年比で否定的な回答数が増加しました。「よくあてはまる」の数字にも大きな開きがありました。お子さまとの会話の中でのニュアンスの違いだけかもしれませんが、ひょっとすると冒頭に記しました「めざす生徒像」とその指導方法について、学校(生徒)と保護者の皆さまとの間で認識の違いが要因にあるかとも考えました。今回の分析では、本当の要因は分かりませんが、これまでもずっと申し上げております通り、これから先の社会を生き抜く子どもたちを育てて



いくには、学校と各ご家庭の協力は必須です。昨年度から保護者の方への情報提供を重点とさせていただいており、左のグラフでも改善は数値として表れておりますが、今後も教育方針にご理解・ご協力いただけるよう情報発信にも尽力していきたいと思っております。

続いて本年度の授業参観等の機会についてです。昨年度に引き続き、今年度もコロナ感染防止の観点から、いろいろな行事において、保護者の皆さまに参観を自粛いただく形を取らざるをえない1年間でした。「学校は、保護者が授業を参観する機会をよく設けている」のグラフに、保護者の皆さまにご賢察・ご理解いただいたことが表れているように思えます。昨年从今年にかけて新たな変異株が生まれ、コロナの問題は収束を見せませんが、引き続き色々なアイデアを検討するとともに、保護者の皆さまにもご協力いただかねばならないと思っております。よろしくお願ひします。

最後に自己肯定感について、2つのグラフを紹介します。同じ自己肯定感についてのグラフですが、「子どもは、自分に良いところがあると思っている」のグラフは、保護者の方の回答結果、その下の「自分には良いところがあると思う」は生徒自身の回答結果です。保護者の方から見て、9割近い子どもが自己肯定感が育っているように見えて、実は、子どもたちの27%が「自分には良いところがない」と思っています。「どうせ自分なんて」と思ってしまう子に、「めざす生徒像」にある「人を思い遣る、何事にも努力をする、感謝の心を持つ等、当たり前のことを当たり前でできる生徒」になることは、なかなかの高い壁です。だからこそ、杉中は生徒に寄り添い、チャレンジさせ、勇気づける学校でありたいと思っております。

③ おわりに

貴重な時間を割いて、本校の教育にご意見を寄せていただきありがとうございました。いただいたご意見は今後の学校経営改善に活用してまいります。なお、回答結果すべてのグラフを本校ホームページにアップしています。こちらもご覧下さい。また、個別に文章表記をいただいたご意見につきましては、全学年分を全教職員が情報共有するとともに、今後の教育活動の参考とさせて頂き、可能な限り学校運営に反映させてまいります。どうぞ今後ともご協力をお願いいたします。